令和５年度　認知症支援研修
心理的アプローチ

光風荘について

◆認知症対応型共同生活介護

（グループホーム）

◆開設年月日：平成16年4月1日

◆ユニット数：2ユニット

1階かわうそ

2階かものはし

◆定員：18名

◆第五小学校の真向い

認知症対応型共同生活介護について

〇基本的な考え方

要介護者であって認知症であるものについて、共同生活住居において、家庭的な環境と地域住民との交流の下で入浴、排せつ、食事等の介護その他の日常生活上の世話及び機能訓練を行うことにより、利用者がその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるようにするものでなければならない

（厚生労働省令　指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準　第八十九条）

認知症対応型共同生活介護について

〇入居要件

◆要介護1以上（介護予防は要支援2）の認定を受けている65歳以上の方

◆若年性認知症との診断を受けた、要支援2または要介護1以上の認定を受けている65歳未満の方

◆医師から認知症の診断を受けている

◆原則、施設と同じ市区町村に住民票を持っている

◆集団生活を営む事に支障がない

光風荘のご入居者様について

◆男女比・・・男性２人：女性１６人

◆平均年齢・・・８９．４歳　最高齢　１０１歳

◆要介護度　平均要介護度　２．５　※例年は2後半~3前半程度

要介護度	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５
人数	３名	５名	８名	２名	０名

◆現入居者様の入居年数　平均入居期間　３年　※例年は４～５年

年数	１年未満	１～３年	３～５年	５～７年	９年
人数	４名	６名	４名	３名	１名

光風荘の職員について

◆職員配置

・各ユニット毎に　①早番　②日勤　③遅番　④夜勤　の４名

・業務内容を自身で企画する　えんがわ　勤務が入る事も

◆職種

・施設長

・計画作成担当者

・介護職

・事務

・調理補助

※医療・看護職の配置はなく、
協力医療機関から訪問診療・看護師の訪問を受けている。

◎全職員の半数以上が、介護職未経験からスタート

入居までの流れ

◆手続き・手順を明確に

◆それぞれの役割の確認を

◆入居にむけて、ご本人にどのような心理的アプローチが必要か

利用申込から入居まで

①施設見学

◆ご家族（可能であればご本人）に来ていただく

⇒見学していただきながら、施設概要を説明

⇒申込書をお渡しする

〇入居の要件
〇入居後のご家族の役割
〇光風荘が担える事・
　担えない事

さらには
〇在宅介護のお悩み相談
〇傾聴

②利用申込

③ご自宅（入所施設）にて面談

◆ご本人・ご家族から、普段のご様子やADL等について伺う

◆ご本人を、体験入居にお誘いする

見学だけなら・・・　まだまだ自宅で・・・
もう施設に入りたい・・・　施設に入れられる・・・？

利用申込から入居まで

④半日体験

◆昼食を挟んで５時間程、ご本人に光風荘へ来ていただき、体験していただく。

ご本人

〇どんな所なのかな・・・
〇どんな事をしているのかな・・・
〇もしかしてここに入る・・・？
〇何時に帰れるのかな・・・

入居の前に、それぞれが光風荘での生活をイメージする

光風荘

〇どんな方かな・・・
〇何に困っているのかな・・・
〇誰と仲良くなれそうかな・・・
〇何かリスクは・・・

ご家族

〇お任せして大丈夫かな・・・
〇入居させてしまっていいのだろうか・・・

半日体験時の事を覚えていらっしゃる方が意外と多く、入居時の不安軽減に繋がる事も

利用申込から入居まで

⑤入居判定会議

◆事前情報・半日体験時のご様子・診療情報提供書などを基に、受け入れの可否を判定。

判断基準：医療的ニーズ・他入居者との関係性・提供サービスとの相性

◆ユニット内の現況・緊急性・希望する居室（和室or洋室）等を基に、入居の順番を決定。

⇒入居　または空室が出来るまで待機

入居に際して・・・

光風荘の受け入れ体制が整い、ご家族も入居にむけて準備を始め・・・

ご本人にはどのように説明する？

〇入居する事を理解できるか？
〇入居する事に納得できるか？
　　この２点を満たせる方は決して多くはない。

理由を誤魔化して、とにかく入居してもらう・・・？
入居後は現場の職員に何とかしてもらう・・・？

どのようにして納得していただくか？

一時しのぎの説明では、後々トラブルになる可能性も。

◆“〇〇だから今日はお泊り”

“住んでいる”という認識が定着せず、帰宅願望を誘発する。
入居後、毎日“今日はお泊り”と説明し続ける事になれば、ご本人も誤魔化されている事に勘付く。

◆入居前のご家族による説明と、入居後の職員による声かけに食い違いが生じると、ご本人の混乱・不信感に繋がりかねない。

例 ご家族「〇〇だから今日はお泊り」⟺ 職員「お引越ししたんですよ」

ご本人「聞いてない！」「家族に騙された！」

◆誤魔化しの説明に、ご家族自身が罪悪感に苛まれる可能性もある。

どのようにして納得していただくか？

ただし、誤魔化さずに納得出来るまで説明し続ける事が、絶対に正しいかというと・・・

◆ご本人が納得できず、怒りや不穏に繋がってしまうと、家族関係にも亀裂が生じかねない。

◆納得してもらえないまま説明を繰り返すことは、ご家族にとっても負担が大きい。入居を進める事に罪悪感を抱いているご家族であれば尚の事。

どのようにして納得していただくか？

〇どのように説明するかは、ご本人の理解力・ご家族の使命感・家族仲等に左右される。

〇理想は誤魔化しなく説明し、ご本人も納得して入居できる事

〇やむを得ず誤魔化しが必要なケースもある。その場合は
☆あまり現実離れしていない内容
☆後に軌道修正がしやすい内容
☆ご本人の好きな事に結び付けられるような内容
☆ご家族との関わりは確保されている事
などを盛り込む事が出来れば、入居後のケアも円滑に進めやすい

どのようにして納得していただくか？

<u>失敗？例：Aさん</u>

〇助言や見守りさえあれば、家事を卒なくこなす事ができる。
〇「老人ホーム」というキーワードに強い拒否感。
〇ご家族は「家の改築が終るまで、光風荘に」と説明。
〇職員も、その説明内容に沿った声かけを続ける。

◆調理等には楽しんで参加されるものの、毎日夕方には「帰りたい」と不安に。
◆７、８年経過しても、夕方の不安は解消されず。
◆９年経った現在、言葉が流暢に話せなくなってきたが、「帰りたい」という言葉は非常に明瞭に発する事が出来る。

どのようにして納得していただくか？

◎光風荘での活動全般に楽しんで関わっていらっしゃる一方、「帰りたい」という不安は強固に残ってしまった。

◎“改築が終るまで”という説明が“いつか帰れる”という思いに繋がり、拠り所となってしまった側面はあると思われる。

◎ただし、Aさんの理解力や性格、ご家族との関係性を考えると、誤魔化しなく説明するのは困難であった。

◎生活全体で見れば、帰宅願望以外の面でひどく不安を抱く事もなく、安定はしている。未だ「帰りたい」と明瞭に表現出来る事は、ある意味ではご本人の強さとも思える。

どのようにして納得していただくか？

成功例：Bさん

〇お料理が非常に好きな方。リハビリにもある程度積極的。
〇自宅への思いは非常に強く、離れる事への抵抗感がある。
〇ご家族は「リハビリの為」「好きなお料理もできる所」と説明。
◆入居した数分後に激しく怒ってしまい、止む無く入居を翌日へと延期。翌日には穏やかに入居。
〇職員も、ご家族の説明内容に沿った声かけを続ける。
〇加えて、「日頃のお手伝いは職員が、受診や外での手続き等はご家族がお手伝いするよう、分担したんですよ」「毎日一緒にお料理しているんですよ。それがリハビリにもなるんですよ」と説明。
◆帰りたい不安を訴えはするが、職員の声かけから安心感に繋げる事が出来ている。

どのようにして納得していただくか？

◎易怒的な側面もあるBさんであるが、ご家族の説明内容をベースに、自然で安心できるケアに繋げる事が出来た。

◎帰宅願望はあるものの、職員の声かけにより都度「光風荘にいた方が安心」という気持ちにまで至っている。

◎不安を訴える事自体はAさんと共通しているものの、声かけで都度安心できるBさんと、漫然とした不安が残るAさんとでは差がある。

ご家族の役割

〇入居申し込みの段階で、光風荘が担える事・担えない事、それに伴うご家族へお願いしたい事は、明確に伝えておく事が望ましい。

◆医療的な支援

常駐看護師不在のグループホームにおいて、担える範囲は医療的ケアに限られる。医療依存度の高い方には不向き。

体調不良時の受診等も、原則ご家族に付き添っていただく様お願いをしている。医療依存度が高い程、ご家族の付き添い頻度も増えていく事に。

◆ご本人との交流

家族間の関係性が途絶えない様、面会・外出・外泊を積極的にお願い。

・・・していたが、新型コロナウイルス流行により、面会は制限付き、外出は必要最小限、外泊はお断りをしている。

ご家族の役割

◆入居に向けたご本人への説明
ご家族にとっては、入居前の最大にして大変な役割かも？

入居後の
心理的アプローチ

◆元々の生活習慣をベースに、光風荘での生活を組み立てていく

◆「グループホーム」の強みが、生活の充実・安心した生活に

◆ご家族との密な情報共有を

光風荘での生活を組み立てていくには

〇少しでも、元の住環境とのギャップを減らす取り組みを

◆使い慣れた物を、適度に持ち込んでいただく。

・家具、仕事道具、衣類、テレビ、ラジオ・・・
ただし、多すぎる荷物は混乱のきっかけにもなり得る。

◆元々の生活リズムを、可能な範囲で尊重

・起床や就寝時間、トイレ誘導のタイミング、入浴の時間帯・・・

◆ご家族との関係性を実感できる道具

・写真、寄せ書きや手紙、携帯電話・・・

グループホームの強み

〇地域密着型サービスの特徴が、安心・安定した生活に繋がる

◆「その市町村の住民のみが利用可能」
住み慣れた地域での生活が安心感を生み、共通の話題にもなる

あそこ小学校なの？子どもが通ってたわー

井の頭公園はよく行ったよー

私は緑町。あなたは？

◆地域住民の方との交流
五小の行事や延命寺等のお祭りにお誘いいただき、お出かけ
・・・が、新型コロナ流行により、現在も自粛状態。

◆有する能力に応じ自立した日常生活を営む
入浴・排泄等のADLに関わる事だけでなく、料理・掃除・洗濯等のIADLに関わる事も職員と共に行い、共に生活を組み立てていく

グループホームの強み

地域交流・外出が思うように出来ない現状、特に力を入れている部分は

家　事

◆現入居者さんほぼ全員が料理・掃除・洗濯等、何かしらの家事に関わっている

<u>エピソード</u>：転倒により大腿部を骨折した101歳のCさん

ADLが低下し、自然とお料理に誘う事がなくなっていたが・・・
ふと包丁とまな板を用意してみた所、
➡容易く野菜を切る事ができている！
➡他入居者さんが料理をしていると、自ら「私も」と！

グループホームの強み

〇“ADLの低下”“101歳”といった事から、「もう出来ないかも・・・」という固定観念を抱いていたが、しっかりとした見守りの元でチャレンジした結果が実を結んだ。

〇昔から家庭内の家事を担い、光風荘入居後も習慣として続けてきた事が、今に繋がっている。

〇今後、包丁仕事にリスクが生じた際にも、包丁を用いない調理にお誘いする等、関心を持っていらっしゃる限りはチャレンジを続けてみる。

ご家族との情報共有

〇ご家族が、ご入居者の事で知っておきたいポイント

◆健康状態やADL
　食事量は？　持病の状況は？　下肢筋力は？　外出制限の影響

◆認知症状の変化
　維持できている？　家族の事を覚えている？　面会制限の影響

◆活動への参加状況
　料理はできている？　他入居者の方と仲良く出来ている？

◆日用品等、物の過不足

〇連絡手段は、緊急性やご家族の意向に併せて、電話やメールを使い分ける

ご家族との情報共有

携帯電話等を持参するご入居者が増え、職員を介さず、ご家族と間接的にやり取りする機会も増加。

➡ 積極的に家事を楽しんでいる方であっても、「料理なんてしてないわ」と答えている事が多々ある。

◎やり取りの内容を随時確認しながら、誤った情報が伝わっていた場合には説明し、誤解を解消する必要がある。

サービスの終了に向けて

◆他施設への転居における心理的アプローチ

◆看取りケアの難しさ

他施設への転居に向けて

〇光風荘を退居する主な理由と転居先
- ◆重度化に対する、設備的・人員的な課題・・・特養へ
- ◆医療的ニーズの増大や救急搬送・・・医療機関へ
- ◆経済的事情・・・従来型特養へ

〇ご入居者本人の意向よりも、ご家族・施設側の意向が優先されているのが実情。

〇心理的なサポートは、ご本人・ご家族共に必要。

他施設への転居に向けて

〇重度化による退居を判断するポイントは、

◆光風荘での生活がご本人にとって負担となっていないかどうか

◆負担を補って余りあるほどのメリットを提供できるかどうか

◆光風荘が提供できる食形態で対応可能な範囲かどうか

例：大腿部を骨折した101歳のCさん

◆骨折により立位・歩行はできなくなったが、尿意はしっかり保たれており、ご本人はどうしてもトイレで排泄をしたい。が、介助を受けると痛くて仕方ない・・・でもトイレで排泄を済ませる事はできる。

◆今でも料理等の家事活動に加わっている。

◆普通食・一部刻み食で摂取可能。

➡負担よりもメリットが大きいと判断

ご本人への心理的アプローチ

〇転居の際、ご本人への説明は？

◆入居時の頃と比較して、“理解”はより難しくなっているケースが多い一方、併せて拒否をするだけの気力が残っていないケースが多い。

◆また、光風荘で過ごす内に施設での生活に慣れた分、多少抵抗感も薄れるという側面もある。

➡転居理由についての説明よりも、退居直前の雰囲気作りが重要か。

◆さらに、救急搬送等により光風荘を離れ、戻れる見込みなく、説明をする間もなくそのまま退居、というケースも一定数ある。

光風荘と転居先の施設との情報共有によって、環境や習慣を可能な限り引き継いでいただく事が、結果としてご本人の安心に繋がる。

ご家族への心理的アプローチ

〇退居に対するご家族の受け止め具合は様々

本当はまだ光風荘で・・・

重度化してきて、これ以上迷惑を掛けられない・・・

医療的には、転居した方が安心かも・・・

◆「慣れ親しんだ場所」という認識は、ご本人だけでなくご家族にも感じていただけているケースが多い。

➡ それ故に、ご家族も喪失感を抱いている

転居先の施設との連携によって、転居後の生活のイメージを構築し、ご家族へお伝えする事で、安心感・信頼感に繋げていく事ができる

看取りの体制について

〇光風荘において看取りを実践し、最期を迎えた方は極々僅か。

◆看取りそのものの難しさもあるが、それ以上に弊害となるのは重度化した方に対して長期的にケアを続けていく難しさ

・提供可能な食形態
・入浴設備
・身体介護に対するキャパシティ
・医療体制　など

◎過去に看取りを行う事が出来た方達は、いずれも比較的短期間の内に状態が悪化していた

最後に

◆武蔵野市で共に働く皆さんへ